

Ⅱ：分担研究報告

研究 3

全国の児童自立支援施設における薬物乱用・依存の

意識・実態に関する研究

全国の子童自立支援施設における 薬物乱用・依存の意識・実態に関する研究

分担研究者：庄司 正実（目白大学人間学部）

研究協力者：富田 拓（国立きぬ川学院）、青木 健（国立武蔵野学院）

【研究要旨】

【目的】本研究の目的は薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物の実態を継続的に把握し、青少年特に非行児の薬物乱用に対する予防・治療教育の基礎資料を得ることである。

【方法】全国の子童自立支援施設に入所中の子童に無記名式質問紙調査を実施した。有効調査人数は 980 人（男性 707 人、女性 273 人）であり、施設回収率は 82.5%であった。

【結果】

- 1) 有機溶剤乱用者数は、男性 23 人（3.3%）、女性 47 人（17.2%）、大麻乱用者数は、男性 11 人（1.6%）、女性 9 人（3.3%）、覚せい剤乱用者数は男性 6 人（0.6%）、女性 5 人（1.8%）、ブタン乱用者数は、男性 21 人（3.0%）、女性 17 人（6.2%）であった。その他、睡眠薬乱用者数は、男性 12 人（1.7%）、女性 29 人（10.6%）、抗不安薬乱用者数が、男性 10 人（1.4%）、女性 22 人（8.1%）、ブロン（咳止め液）乱用者数が、男性 8 人（1.1%）、女性 9 人（3.3%）、危険ドラッグ乱用者数は、男性 5 人（0.7%）および女性 2 人（0.7%）に認められた。従来の結果と同様にほとんどの薬物にて女性は男性より乱用頻度が高かった。
- 2) 1994 年度からのおもな薬物乱用頻度の変化は以下のとおりである。有機溶剤乱用はこれまでと同様に減少傾向を示した。特に男性においてこの傾向が著しく、1994 年 41.2%から 2006 年以降 10%前後に減少し前回 4.5%で今回 3.3%であった。女性でも 1994 年 59.6%から 2006 年以降 30%となっていたが、前回 20.6%今回 17.2%となった。覚せい剤乱用は男女とも 2000 年ころまでやや増加傾向にあったが、2002 年以降減少傾向を示しており、男性は 2006 年以降 1%以下で今回 0.8%女性は 2008 年以降 10%以下となっていたが今回は 1.8%とさらに減少した。大麻乱用頻度について、男性は 4%から 5%前後であったが 2010 年以降 2%ほどであり今回も同様に 1.6%であり、一方女性では 1994 年（22.0%）および 1996 年（19.0%）はやや高かったが 1998 年から 14%から 15%台となり前回 5.5%今回 3.3%と 10%以下となっている。
- 3) 薬物乱用に対する態度は、許容的態度をしめす者が男性では 3%から 5%女性では 10%から 20%見られ、女性では特に医薬品乱用に対しては許容的傾向であった。入所非行児の非行歴を検討した結果では非行程度がやや軽度化している傾向が示唆された。

【考察】子童自立支援施設入所子童は薬物乱用のハイリスクグループであるが、子童の乱用薬物が従来のように有機溶剤中心ではなくなっていることを示している。今後とも継続的に実態を把握していくことが必要である。

A. 研究目的

われわれは、1994年度より2014年度まで隔年ごとに児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用の実態を全国調査してきた¹¹⁰⁾。その結果、有機溶剤乱用者は男女とも低下してきており特に男性における低下が顕著であるという結果が得られている。また、覚せい剤乱用は男女とも2000年ころまで増加傾向にあったが、2002年以降減少傾向を示していた。大麻乱用頻度について男性は4%から5%前後であり女性では1998年以降は12%から15%台であり変化はなかった。

これら各種薬物の非行少年における乱用実態を継続的に把握することが本研究のおもな目的である。薬物乱用では実際に検挙されず暗数となっている乱用者が多く、特に入所女子非行児では依然薬物非行は重要な位置を占めており、非行児の実際の薬物乱用状況を知ることがどうしても必要である。

児童自立支援施設入所非行児における薬物乱用の動態の変化は薬物乱用検挙少年者数動向と類似している。警察庁統計によれば2015年に覚せい剤事犯で送致した少年は119人、大麻事犯で検挙した少年は144人であった¹¹⁾。また近年問題となっている危険ドラッグの少年検挙数は28人であった。有機溶剤乱用は1990年代初め2万人以上が検挙されていたが、現在激減している警察統計でもあまり取り上げられなくなっている。

このような検挙数の変化が、実際の非行臨床場面における薬物乱用に反映しているかどうかを把握することは非行臨床の実践にとっても重要である。

本調査では、2014年に引き続き児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用実態を調査することにより薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物乱用の動態を把握する。おもな調査対象薬物は、われわれの従来調査の結果と比較できることおよび他の調査研究や司法統計資料と比較検討できることより有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタンとしたが、その他の薬物についても簡単に乱用経験および周囲の乱用状況を

尋ねる質問項目を追加した。

B. 研究方法

1. 対象

全国の57の児童自立支援施設入所児童に調査用紙を配布した。回答が得られた施設は、47施設であった(施設回収率82.5%)。分析では性別の記載のなかった者を除いた。その結果最終的調査対象者数は980人(男性707人、女性273人)となった。

2. 調査用紙

調査用紙は資料に示した。調査項目は、薬物乱用関連項目、薬物以外の非行関連項目、性格検査項目、一般個人属性などである(資料参照)。

調査が今後も同一施設に継続的に実施できるように、なるべく被調査施設および被調査者の負担にならないように留意した。今年度より調査項目を減らし、また回答者である児童にとって見やすいようなレイアウトでふりがなを振り回答に負担がかからないように配慮した。

3. 調査手続き

調査用紙は各施設に郵送し、施設ごとで実施してもらった。終了後施設ごと一括して返送してもらった。回答用紙は無記名式である。調査については目白大学倫理審査会の審査を受けた。回答は強制ではなく回答したくない場合は回答しなくてもよく、また回答しなくても不利益は被らないことを説明し実施した。

C. 研究結果

1. 対象者の属性

対象者の、性・学年構成、性・年齢構成、施設入所期間、地域別人数、非行歴、初発非行年齢、家庭裁判所係属歴を表1から表7に示した。

性別にみると男性が707人で全体の72.1%を占めている。就学状況は、中学3年生が男性281人(39.7%)、女性が121人(44.3%)と最も多い(表1)。中学生が多いが、高校生および専門学校生が男性22人(3.2%)、女性14人(5.2%)いた。中学卒業後で無職である者も男性3人

(0.3%)、女性7人(2.6%)いた。そのほか小学生が男女それぞれ92人(13.1%)、15人(5.5%)いた。就労者は1名いた。年齢で見ると中学2年および3年に相当する14歳および15歳が男性でそれぞれ31.4%、28.0%、女性で31.9%、35.5%と多くを占めていた。一方、18歳以上の者は男性5人女性1人であった(表2)。

施設入所期間は、最も多いのは期間6ヶ月から1年で男性219人(31.0%)女性70人(25.6%)であった。また入所初期の3ヶ月以下の者が男性103人(14.6%)女性52人(19.0%)であった。一方、2年以上入所している者が男性74人(10.5%)、女性23人(8.4%)いた(表3)。

居住地は、施設の所在地により北海道・東北、関東、中部、関西、中国・四国、九州・沖縄に分けた。国立2施設については児童本人の居住地を確認していないため居住地不詳とした。最も人数の多かった地域は関西(男性170人、女性74人)であり、また調査対象数が最も少なかったのは九州(男性71、女性32人)であった(表4)。

非行歴に関しては多いものから順に、男性では怠学439人(62.1%)、傷害408人(57.7%)、窃盗400人(56.6%)、家出・外泊397人(56.2%)、金品持ち出し359人(50.8%)、女性では怠学221人(81.0%)、家出・外泊219人(80.2%)、窃盗160人(58.6%)、不良交友160人(58.6%)、金品持ち出し156人(57.1%)などとなっている(表5)。

初発非行年齢は、男性では小学校3年から中学校1年で10%台でありほぼ各学年同程度である。女性は中学校1年で18.3%とやや高い(表6)。

家庭裁判所への係属歴は、性差はなく、男性155人(21.9%)、女性51人(18.7%)である(表7)。

2. 薬物乱用の頻度

調査対象薬物は前回2014年調査と同じく有機溶剤、ブタン、大麻、覚せい剤、コカイン、睡眠薬、安定剤、咳止め液、MDMA、リタリン、危険ドラッグである。入所非行児の薬物乱用は

女性に多く性差があるため、男女別に検討した。

1) 周囲の薬物乱用頻度(表8)

児童達の交友関係など周囲に各種薬物乱用者がいるかどうか尋ねた。その結果、すべての薬物で女性は男性よりも周囲の薬物乱用頻度が高く、これまで通りであった。

男性では、有機溶剤74人(10.5%)、ブタン57人(8.1%)、睡眠薬56人(7.9%)、抗不安薬44人(6.2%)、大麻43人(6.1%)、覚せい剤41人(5.8%)、危険ドラッグ23人(3.3%)、咳止め液16人(2.3%)、コカイン15人(2.1%)、MDMA12人(1.7%)、リタリン8人(1.1%)、の順であった。

女性では有機溶剤90人(33.0%)、睡眠薬78人(28.6%)、覚せい剤63人(23.1%)、抗不安薬57人(20.9%)、ブタン49人(17.9%)、大麻48人(17.6%)、危険ドラッグ33人(12.1%)、MDMA17人(6.2%)、コカイン16人(5.9%)、咳止め液14人(5.1%)、リタリン9人(3.3%)、の順であった。

2) 周囲の薬物乱用による精神症状発現者(表9)

有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタン・睡眠薬/抗不安薬・危険ドラッグの6つについて、身近に使用していて病気や異常になった人がいたかどうか尋ねた(表9)。「いた」「いない」の2件法である。

その結果、男性の周囲で薬物による症状は、有機溶剤18人(2.5%)、覚せい剤18人(2.5%)、ブタン16人(2.3%)、睡眠薬15人(2.1%)、大麻12人(1.7%)、危険ドラッグ8人(1.1%)であった。

一方女性の周囲で薬物による症状は、睡眠薬34人(12.5%)、覚せい剤33人(12.1%)、有機溶剤27人(9.9%)、ブタン25人(9.2%)、大麻25人(9.2%)、危険ドラッグ18人(6.6%)であった。

3) 周囲からの薬物乱用の誘い(表10)

有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタン・睡眠薬

抗不安薬・危険ドラッグを誘われたことがあるかどうかを尋ねた。「ある」「なし」の2件法である。

男性で誘われた薬物は、有機溶剤30人(4.2%)、大麻25人(3.5%)、ブタン22人(3.1%)、覚せい剤13人(1.8%)、睡眠薬13人(1.8%)、危険ドラッグ11人(1.6%)の順であった。

一方女性では、有機溶剤49人(17.9%)、大麻34人(12.5%)、睡眠薬29人(10.6%)、ブタン27人(9.9%)、覚せい剤20人(7.3%)、危険ドラッグ15人(5.5%)の順であった。

4) 薬物の入手性(表11-1、11-2)

有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタン・睡眠薬/抗不安薬・危険ドラッグの6薬物について、入手がどの程度可能であるか尋ねた。「簡単に手に入る」「何とか手にはいる」「ほとんど不可能」「絶対に不可能」の4件法である。

このうち「簡単に手に入る」としたものは、男性ではブタン24.0%、睡眠薬13.0%、有機溶剤11.5%、大麻5.7%、覚せい剤4.4%、危険ドラッグ2.8%であった。

一方女性では、ブタン39.5%、睡眠薬38.9%、有機溶剤33.6%、大麻14.8%、覚せい剤14.0%、危険ドラッグ9.3%であった。

5) 本人の薬物乱用頻度(表12)

本人の薬物乱用もほとんどの薬物において女性は男性より頻度が高かった。

男性では、乱用頻度が高い順に、有機溶剤23人(3.3%)、ブタン21人(3.0%)、睡眠薬が12人(1.7%)、大麻11人(1.6%)、抗不安薬10人(1.4%)、咳止め液8人(1.1%)、覚せい剤6人(0.8%)、危険ドラッグ5人(0.7%)、MDMA4人(0.6%)、リタリン3人(0.4%)、コカイン3人(0.4%)であった。

女性では、乱用頻度が高い順に、有機溶剤47人(17.2%)、睡眠薬26人(10.6%)、抗不安薬22人(8.1%)、ブタン17人(6.2%)、咳止め液9人(3.3%)、大麻9人(3.3%)、覚せい剤5人(1.8%)、MDMA2人(0.7%)、危険ドラッグ2人(0.7%)、コカイン1人(0.4%)、リタリン1人(0.4%)で

あった。

各薬物とも無回答者がいたため乱用頻度の少ない薬物では結果の信頼に問題がある。

6) 飲酒歴(表13、表14)

2010年調査より飲酒歴についても確認することとしている。飲酒経験は、男性では296人(41.9%)女性では197人(72.2%)であった。飲酒頻度は男性では1年で数回とした者(108人;15.3%)がやや多いが、女性ではほぼ毎日あるいは週に2-3回(いずれも62人;22.7%)が多く女性のほうが飲酒していた。飲酒開始年齢は、男女とも中学校1年生がほぼ30%以上であり最も多かった。

7) 喫煙歴および喫煙への態度(表15、表16、表17)

喫煙歴についても2010年調査より調査項目とした。喫煙歴は男性293人(41.4%)女性172人(63.0%)であり、女性のほうが、頻度が高かった。喫煙は、飲酒と異なり経験者では使用頻度はほぼ毎日とする者が男女とも最も多かった。男性の170人(24.0%)女性の105人(38.5%)が毎日喫煙をしていた。喫煙開始年齢は、男女とも中学校1年生がほぼ30%以上で最も多かった。

法律による未成年の喫煙禁止については、「すべきではない」「少々ならかまわない」「かまわない」で尋ねた。男性では「かまわない」および「少々ならかまわない」いう許容的回答をした者は、男性ではそれぞれ130人(18.4%)161人(22.8%)、女性ではそれぞれ100人(36.6%)70人(25.6%)であった。

8) 有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタンの乱用頻度の年代変化(表18-1、18-2)

有機溶剤、大麻、覚せい剤の乱用頻度について、1994年から今回2016年調査までの隔年調査結果を表にまとめた。ブタンは調査開始の2000年からの結果を示した。

有機溶剤乱用は、男性において一貫して減少しており1994年41.2%から2008年には10.7%

となり、今回は前回 2014 年よりさらに減少し 3.3%となった。女性有機溶剤乱用率は男性よりも減少率がゆるやかであったがやはり漸減し前回 2014 年 20.6%から今回 17.2%となった。

大麻は男性では 1994 年から 2008 年までほぼ 4%から 6%の範囲であったが、2010 年以降 2%程度が続いており今回 2016 年は 1.6%となった。女性では 1998 年から 2008 年にかけて 14%から 15%台であったが 2012 年以降 10%以下となり今回は 3.3%に減少した。

覚せい剤は男性では 1994 年 1.2%から 2000 年 5.0%まで増加したのち、2002 年 2.5%、2004 年 1.6%となり、2006 年は以降 1%以下であり前回 2014 年は 0.1%とほとんど認められない状態となっており今回も 0.8%と 1%以下であった。女性では 1994 年 6.6%から 1998 年 16.9%まで増加したが、2000 年 15.2%から 2006 年 10.9%へと低下傾向であり、2008 年以降は 10%以下となり 2012 年からは 5%以下であったが、今回はさらに 1.8%に低下した。

ブタンは、男性では 2000 年 17.8%からやや減少傾向にあったが前回 2014 年までは 10%以上見られた。今回は 3.0%と急減していた。女性でも 2000 年 33.3%から減少傾向を示し前回 2014 年 21.8%であったが今回 6.2%地急減している。男女とも前回の 1/3.程度になっていた。

9) 地域ごとの有機溶剤、大麻、覚せい剤の乱用頻度 (表 19-1、19-2)

比較的乱用者の多い有機溶剤、大麻、ブタン、睡眠薬、危険ドラッグの各種薬物乱用頻度を地域ごとにみてもみた。

男性では、いずれの薬物も九州で乱用者が多かった。その他の地域で多かったのは、有機溶剤の関東、ブタンの中部などであった。

女性の場合、全体に関西あるいは中国・四国などにおいて各種薬物乱用者が多かった。関東では有機溶剤や睡眠薬の乱用が多かった。

地域別の検討では、対象数が少なくなるので調査年度による変動が大きい。そのため結果の信頼性は低いと考えられる。

3. 各種薬物に対する意識 (表 20-1、20-2)

有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタン、睡眠薬・抗不安薬、危険ドラッグについて薬物使用への意識を尋ねた。回答は「すべきではない」「少々なら構わない」「構わない」「考えたことがない」の 4 件法である。

いずれの薬物も半数以上の児童は特に薬物乱用をしてはいけないかどうか考えたり意識したりはしていなかったとしている。それ以外の回答では、すべきではないと答えたものが多かった。

男性で「すべきではない」と回答した者は、有機溶剤 40.8%、大麻 41.3%、覚せい剤 43.2%、ブタン 40.2%、睡眠薬・抗不安薬 39.5%、危険ドラッグ 42.0%、であった。女性で「すべきではない」と回答した者は、有機溶剤 29.6%、大麻 33.7%、覚せい剤 35.3%、ブタン 29.3%、睡眠薬・抗不安薬 26.8%、危険ドラッグ 34.3%、であった。

すべて薬物で男性の方が女性よりも「すべきではない」と答える傾向であった。

4. 有機溶剤、大麻、覚せい剤の乱用頻度・有害性の知識・体験症状

1) 有機溶剤

① 有機溶剤吸引頻度(表 21)

乱用者の男性 18 人女性 36 人に有機溶剤を最も乱用していた時期の吸引頻度を尋ねた。「今まで 1、2 回」が男女それぞれ 11 人 (61.1%)、18 人 (50.0%) と多かった。「ほとんど毎日」と回答した者は男女それぞれ 2 人 (11.1%)、3 人 (8.3%) であった。

② 有機溶剤の有害性知識 (表 22-1、22-2)

有機溶剤乱用の影響として、急性中毒死、精神病状態 (幻覚・妄想など)、フラッシュバックについて知っていたかどうかを尋ねた。

男性の知識は、急性中毒死 216 人 (30.6%)、精神病状態 311 人 (44.0%)、フラッシュバック 273 人 (38.6%) であり、いずれもしらなかつたのは 295 人 (41.7%) であった。

女性では急性中毒死 82 人 (30.0%)、精神病状態 160 人 (58.6%)、フラッシュバック 143 人 (52.4%) であり、いずれもしらなかったのは 80 人 (29.3%) であった。

女性の方が男性よりも有害性知識がある傾向にあった。

③ 有機溶剤で体験した症状 (乱用者) (表 23)

乱用者の男性 18 人女性 36 人に有機溶剤による症状を訪ねた。精神病状態が男性乱用者 6 人 (33.3%)、女性乱用者 8 人 (22.2%)、フラッシュバックは男性乱用者 4 人 (22.2%)、女性乱用者 8 人 (22.2%) であった。

2) ブタン乱用

① ブタン乱用頻度 (表 24)

乱用者の男性 26 人女性 22 人にブタンを最も乱用していた時期の吸引頻度を尋ねた。「ほとんど毎日」していた経験があるのは、男性 2 人 (7.7%)、女性 4 人 (18.2%) であった。一方、「いままで 1、2 回」のみと回答した者は男性 11 人 (42.3%)、女性 14 人 (63.6%) であった。

② ブタンの有害性知識 (表 25-1、25-2)

ブタン吸引の影響として、精神病状態、急性中毒死を知っていたかどうかについて尋ねた。

男性の知識は、急性中毒死 503 人 (71.1%)、精神病状態 120 人 (17.0%)、いずれもしらなかったのは 510 人 (72.1%) であった。

女性では急性中毒死 185 人 (67.8%)、精神病状態 39 人 (14.3%)、いずれもしらなかったのは 80 人 (29.3%) であった。

女性の方が男性よりも有害性知識がある傾向にあった男性では乱用者は非乱用者よりも有害性の知識があるが、女性では急性中毒死について乱用者と非乱用者の間に大きな差はないようであった。

③ ブタンで体験した症状 (乱用者) (表 26)

乱用者において体験した症状を尋ねた。その結果ブタン乱用によって精神病状態を体験し

た者は男女それぞれ 11 人 (42.3%)、8 人 (36.4%) であった。

3) 大麻

① 大麻の知識・関心 (表 27)

「大麻を吸う前 (使ったことがない人は施設入所前)、大麻についてあなたはどのように思っていたか」を尋ねた。

関心がなかったとした者が男性 428 人 (60.5%) 女性 164 人 (60.1%) と最も多かった。一方「見てみたかった」が男性 25 人 (3.5%) 女性 29 人 (10.6%)、「試してみたかった」が男性 24 人 (3.4%) 女性 18 人 (6.6%) であった。

② 最もしていた時の大麻乱用頻度 (表 28)

大麻乱用経験者に最も吸引していた時期の吸引頻度を尋ねた。「今まで 1、2 回」が男性では 6 人 (46.2%) 女性では 4 人 (50.0%) と多かった。また「数回以上」と答えた者も男性 4 人 (30.8%) 女性 4 人 (50.0%) と多かった。男性で「ほとんど毎日」と答えた者が 3 人 (23.1%) みられた。

③ 大麻の有害性知識 (表 29-1、29-2)

大麻吸引の影響として、精神病状態になることを知っていたかどうか尋ねた。男女それぞれ 327 人 (46.3%) および 152 人 (55.7%) が知っていたと回答した。

④ 大麻で体験した症状 (乱用者) (表 30)

乱用者に大麻による精神病症状を体験したかどうかを尋ねた。男性 6 人 (46.2%)、女性 2 人 (25.0%) が精神病症状を体験したと答えた。

4) 覚せい剤

① 覚せい剤への知識・関心 (表 31)

「覚せい剤を使う前 (使ったことがない人は施設入所前)、覚せい剤についてどう思っていたか」を尋ねた。関心がなかったとした者が男性 460 人 (65.1%) 女性 181 人 (66.3%) と最も多かった。「見てみたかった」および「試してみ

たかった」という覚せい剤への関心を示した者が、男性でそれぞれ 26 人 (3.7%) 13 人 (1.8%)、女性でそれぞれ 23 人 (8.4%) 16 人 (5.9%) いた。

② 覚せい剤の乱用頻度 (表 32)

覚せい剤乱用者については最も乱用していた時期にどの程度乱用していたかを尋ねた。男女とも「今まで 1、2 回」が多く男女それぞれ 3 人 (50.0%)、6 人 (85.7%) であり、「数回以上」は男性 1 人 (16.7%)、女性 1 人 (14.3%) であった。男性では「ほとんど毎日」とした者も 2 人 (33.3%) いた。

③ 覚せい剤の有害性知識 (表 33)

覚せい剤吸引の影響として、精神病状態およびフラッシュバックについて尋ねた。男性の知識は、精神病状態 253 人 (35.8%)、フラッシュバック 484 人 (68.5%) であり、いずれもしらなかつたのは 383 人 (54.2%) であった。一方女性は、精神病状態 130 人 (47.6%)、フラッシュバック 109 人 (39.9%) であり、いずれもしらなかつたのは 112 人 (41.0%) であった。

④ 覚せい剤の有害性体験率 (表 34)

覚せい剤乱用者に、精神病状態、フラッシュバックの体験について尋ねた。男性では、精神病状態もフラッシュバックとも 3 人 (50.0%) が体験していた。女性では、精神病状態およびフラッシュバックを体験した者はいずれも 1 人 (14.3%) であった。

5) 危険ドラッグ

① 危険ドラッグの有害性知識 (表 35)

危険ドラッグの影響として、精神病状態および急性中毒死について尋ねた。男性の知識は、急性中毒死 228 人 (32.2%)、精神病状態 268 人 (37.9%)、いずれもしらなかつたのは 371 人 (52.5%) であった。女性では、急性中毒死 96 人 (35.2%)、精神病状態 140 人 (51.3%)、いずれもしらなかつたのは 115 人 (42.1%) であっ

た。

② 危険ドラッグと覚せい剤の比較 (表 36)

危険ドラッグが覚せい剤より心身への影響が大きい場合があることを知っているかどうかを尋ねた。

知っていたと答えたものは、男性 337 人 (47.7%)、女性 160 人 (58.6%) であった。

D. 考察

1. 本年度調査の薬物乱用実態

1) 乱用薬物の種類

今年度の調査で、非行児の乱用薬物として多かったのは男性では有機溶剤 23 人 (3.3%) およびブタン 21 人 (3.0%)、女性では有機溶剤 47 人 (17.2%)、睡眠薬 29 人 (10.6%)、抗不安薬 22 人 (8.1%)、咳止め液乱用 17 人 (6.2%) などであった。

また 2012 年度より新たに調査対象薬物とした危険ドラッグは、男女それぞれ 2012 年は 25 人 (3.6%) および 23 人 (8.0%) であったものが、前回 2014 年は 17 人 (2.2%) および 19 人 (5.8%)、今回 2016 年は 5 人 (0.7%) および 2 人 (0.7%) といずれも 1%以下に減少した。これはやはり危険ドラッグ取り締まりの対策によるものと推測される。

薬物乱用で検挙された少年数は近年減少している。特に有機溶剤乱用は 1990 年頃には 2 万人以上が検挙されていたが、その後急激に減少していき 1994 年に 1 万人以下となり 2006 年には 1000 人以下と大きく減少している。2011 年には少年の送致件数は 100 人となった。われわれのこれまでの入所非行児調査では以前は男女とも有機溶剤が最も多い乱用薬物であったが、2006 年調査以降は男性では有機溶剤乱用よりもブタン乱用の方が多くなっていた。女性においても前回 2014 年調査でブタン乱用が有機溶剤乱用よりもやや高い頻度となった。しかし今回男女ともブタン乱用が急減している。前回と比較して男女それぞれ 11.3%から 3.0%への減少および 21.8%から 6.8%への減少を示し、1/3 程になっていた。この現象の理由ははつき

りしないが今後とも継続して調査する必要がある。

また医薬品である睡眠薬や抗不安薬の乱用が比較的多く認められている。青少年の乱用薬物としてあまり重要視されていないが今後乱用薬物として注意する必要がある。有機溶剤乱用が急減してきたため、ブタンや抗不安薬が相対的に高頻度となり、実態については今後とも把握していく必要がある。

また医薬品として以前より使用されていた咳止め液（ブロン液など）も乱用薬物としてまだ時々みられる。

男性において、その他の薬物乱用頻度は1%台以下である。この値は未回答者の頻度と変わらずこれらの薬物乱用頻度は信頼性が低いと考えられる。

全体的に薬物乱用が減少してきているため、特に男性では児童自立支援における薬物問題の重要性は相対的に低下していると考えられる。そのため薬物に対する啓蒙教育があまり行われなくなるのではないかと心配される。

2) 薬物乱用の性差

入所非行児の薬物乱用の性差については、従来と同様にすべての薬物において男性より女性の方が、乱用率が高く、また乱用者実数も多かった。一方、警察庁統計によれば⁹⁾、有機溶剤乱用、大麻乱用、覚せい剤乱用により検挙された犯罪少年のうち女性の割合はそれぞれ40.0%、24.7%、62.8%である。つまり大麻のみ著しく男性に多く、有機溶剤はやや男性が多く、覚せい剤は女性が多い。われわれの調査対象である入所非行児においては、これは検挙された犯罪少年の場合とはやや異なるといえる。

この理由として、一つには女子非行では性非行や薬物非行が重要な入所理由となりやすいことが考えられる。児童保護の観点から、薬物問題は男性より女性で重要となりやすい。児童自立支援施設への入所は児童相談所や家庭裁判所の判断によるので、女性の場合の方が薬物乱用をしたことによって施設入所になる可能性が高いと思われる。

3) 薬物乱用の地域差

薬物乱用の頻度を地域ごとの検討した結果、薬物の種類により地域差が認められた。しかし、地域ごとの対象人数はそれほど多くないので乱用率などの結果の変動は大きい。そのため地域差については断定的なことは言いにくい。

今回、男性では全般的に九州において薬物乱用頻度がたかい。またそれ以外では有機溶剤がやや関東で高くまたブタンがやや中部で高かった。一方女性の場合は、全般に関西および中国・四国で薬物乱用頻度が高かった。

このように対象数が少ないため地域差を検討するのは困難であるが、薬物乱用は環境の影響が大きいと考えられるので今後とも地域差については検討をしていく。

2. 薬物乱用の年代変化

乱用頻度の年代変化は回答数や回答施設の変動の影響を受ける。回答者数は、今回980人であった。このような回答率の変動を考慮し結果の解釈には注意が必要である。また薬物乱用には地域差があるので回答する施設が調査ごとに異なるとその影響も出てくると思われる。さらに対象者のうち1年以上入所している者が30%以上いる。これらの対象者では1年以上前の薬物経験を訪ねていることになるので警察統計の年度と直接比較し評価することは難しい。

以上を考慮したうえで有機溶剤乱用、大麻乱用、覚せい剤乱用、ブタン乱用の年次変化についておおよそ下記のとおりである。

1) 有機溶剤

男性では1994年度調査より有機溶剤乱用は一貫して減少しており、1994年度から2014年まで2年おきに41.2%、37.3%、30.3%、26.4%、21.6%、14.3%、9.8%、10.7%、7.2%、4.5%、4.5%となっている。今回2016年度はさらに減少し3.3%となった。

一方、女性も減少傾向にあるが男性ほど顕著でない。女性では、1994年から1998年までの

59.6%、50.6%、48.5%と減少したが、2000年は52.3%とやや上昇し、その後2002年から2014年度まで46.5%、44.2%、31.1%、30.5%、28.6%、21.6%、20.6%と減少してきており、今回2016年度さらに減少し17.2%となった。

平成21年版犯罪白書によれば有機溶剤乱用により検挙された少年数は、1991年ごろは2万人前後であったがその後漸減し、2013年には100人までに減少した。この傾向は児童自立支援施設入所非行児の有機溶剤乱用者数の動向は検挙少年数との変化と相関していると思われる。児童自立支援施設入所児童の有機溶剤乱用率が今後とも減少していくか継続的調査が必要である。

2) 大麻

大麻乱用は、男性では1994年および1996年は5.5%、6.7%であったが、1998年から2008年までほぼ4%から5%前後で一定していた。2012年および2014年は2.0%ほどであったが、今回はさらに1.6%となった。女性では、1994年から1998年まで22.0%、19.0%、14.4%と漸減し、2000年から2008年まで14%から15%台であり、2010年・2012年・2014年それぞれ12.6%、7.0%、5.5%と低下した。今回2016年は3.3%となった。

全体としてみるとこの10年ほど児童自立支援施設入所児の大麻乱用は有機溶剤乱用と比較すると乱用頻度の傾向ははっきりとはしていない。しかし2012年以降男女ともそれ以前よりはかなり減少してきているようである。警察庁は大麻事犯の検挙数増加の要因として若年者層の使用増加を挙げており¹¹⁾今後とも経過を見ていく必要がある。

3) 覚せい剤

検挙された覚せい剤乱用少年は1990年代中頃より増加し、その後1998年より減少傾向にある。このような傾向と同様に、児童自立支援施設調査の覚せい剤乱用頻度も、男性では1994年1.2%から2000年5.0%まで増加傾向にあり、2002年度に2.5%へと始めて減少し、2004年1.6%、2006年0.7%となった。2006年以降ずつ

と1%以下であり、今回2016年も0.8%であった。男性非行児において、覚せい剤乱用はほとんど認められなくなってきている。女性では男性よりも乱用者が多いが最近では女性でも減少が目立つ。2006年までは10%以上いたが2008年以降は女性においても覚せい剤乱用は10%以下に減少してきており2014年は5.5%で今回2016年3.3%となった。全般に覚せい剤乱用は一時増加したが、ここ数年は減少傾向にあるといえよう。

4) ブタン

ブタン乱用ここ数回の調査で有機溶剤と同程度の乱用頻度を示しており、入所非行児において注意される乱用薬物であった。調査開始の2000年以降がやや減少傾向であり前回2014年は、乱用頻度は男女それぞれ11.3%と21.8%であった。今回男女とも前回の1/3程度に急に減少していた。その原因についてははっきりしていない。一時テレビ等でガス吸引による死亡が報道されたりしたためその教育的効果かもしれない。今回の調査で乱用頻度が少なかったが入手が容易な物質であるので今後とも動向を注視する必要がある。

3. 対象者の特性

薬物乱用への態度についても一連の研究で継続的に検討している。

1) 薬物乱用に対する態度

従来調査では、対象薬物について、「薬物の乱用そのものについてどう思うか」および「法律で薬物乱用を禁止していることをどう思うか」を尋ねてきた。今回より質問項目数調整のため質問形式および内容を変更した。有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタン、睡眠薬・抗不安薬、危険ドラッグの6つの薬物について薬物を使うことについてどう思うかを尋ねた。

今回「薬物乱用について特に考えたことはない」という回答選択肢をくわえたところ、どの薬物についても50%以上が「薬物乱用について特に考えたことはない」と回答していた。考

えたことはないという回答が多かったため薬物への態度を適切に測れなかった可能性がある。このような制限があるが、考えたことはないという者を除くと、ほとんどの者がすべきではないと答えていた。「少々なら構わない」「構わない」など薬物使用に許容的態度は男性では5%以下に過ぎなかった。女性は男性よりも薬物乱用に許容的であり、睡眠薬・抗不安薬では1/4近くが少々なら構わない」「構わない」など許容的回答をしていた。有機溶剤やブタンでも15%ほどが許容的態度を示した。実際の薬物乱用も女性で高いことも合わせて、入所非行児においては、女性は男性よりも薬物乱用に親和的であると考えられる。

2) 薬物の有害性知識

有機溶剤、ブタン、大麻、覚せい剤、危険ドラッグにおける精神症状の知識を尋ねた。有機溶剤では急性中毒死・精神病・フラッシュバックに対して30%から50%が知っているとして答えていた。それに対してブタンでは急性中毒死の知識が70%ほどと高く、これが今回の調査でブタン乱用減少と関連しているのかもしれない。ブタンについては中毒死の知識が高い反面幻覚などの精神病症状が出ることについては10%台と少なかった。大麻や覚せい剤では精神病症状について40%から50%の者が知っていた。危険ドラッグについても一時の報道の効果か40%から50%で精神病症状が出ることを知っていた。また危険ドラッグの症状が覚せい剤よりも有害なことがあるという質問にも50%から60%の者が知っているとしており教育的知識の効果はあると思われた。

3) 非行歴

薬物非行を非行問題全般中でとらえる必要があると考え、薬物乱用以外の非行経験もこれまで継続的に調査している。入所非行児の処遇を考えるうえでどのような非行状況にあるのか把握することは重要と考える。相対的に薬物非行が多ければ薬物教育の必要性も高まると思われる。最近の入所児童の非行問題の変化の

検討のため、代表的な非行行動として「恐喝・ひったくり」「不良交友」「傷害」の頻度を以前のわれわれの調査結果と比較してみる。

「傷害」は1998年男性70.0%女性57.1%、前回2014年は男性52.9%女性47.0%であったが、今回は男性57.7%女性49.8%でやや減少傾向である。「不良交友」は1998年男性69.4%女性80.5%、前は男性43.1%女性52.1%、今回は男性37.2%女性58.6%であった。やはりこれも調査当初よりやや減少傾向にあるようである。「恐喝・ひったくり」は1998年男性59.6%女性54.4%、前回男性19.0%女性15.8%で、今回は男性19.1%女性22.3%でありかなり減少傾向にある。

1998年より児童自立支援施設は教護院より名称変更され、施設目的も非行性の除去だけでなく自立への援助が必要な児童への対応となってきている。そのため以前より入所児童の非行度は低下している可能性が示唆される。有機溶剤乱用頻度の減少もこのような入所児童の非行性の低下と一部関連しているのかもしれない。しかし薬物によって乱用頻度が大きく減少しているものとそうでないものがあり乱用と非行性全体の関連ははっきりしない。一方、家庭裁判所への係属率などはそれほど変化しておらず、一概に非行性が低下しているとも言いきれず、薬物乱用との関連は断定できない。

今後母集団としての入所児童の特性変化に注意しながら薬物乱用調査をしていく必要があると思われる。

4. 方法論上の問題点

1) 対象者の特性

本研究は児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用の実態調査であるが、前述のとおり入所児童の特性が以前と変化している可能性がある。今回入所児童のいくつかの非行行動は薬物乱用に限らず次第に減少していることが示唆されている。

施設関係者の間では入所児童が以前ほどいわゆる反社会性が目立たなくなっていると言われている。特に1998年に教護院から児

童自立支援施設へと名称変更になり、同時に施設目的がかつての教護院時代の非行性除去ではなく児童への支援となり、さらに入所児童が変化してきていると考えられる。入所児童はおもに反社会性の高い非行児童であるが、非社会的であったり発達障害などの精神障害を伴い不適応を起こしていたりする児童が増えてきているとされている。国立武蔵野学園による調査では、児童自立支援施設における発達障害の診断率はおよそ 20-30%とされる。したがって調査対象そのものの問題が非行などの反社会性よりも養護性となってきている。

以前よりも非行性の軽い児童が多く入所するようになってきているとすると、当然薬物非行もそれに伴い減少している可能性がある。したがって入所児童の特性の変化に注意しながら今後の継続的調査を進めていく必要がある。

2) 対象数の変動

われわれの調査は全国児童自立支援施設を対象としているがこれまで有効回答数は 1000 人から 1300 人ほどである。今回も 980 人でほぼこれまで通りであった。人数が少ないと地域差による変動なども受けやすく結果の信頼性も低下する。本調査は比較的質問数が少ないとはいえ、児童および施設にとって調査協力はやはり負担であると思われるので、次回以降の調査でも回答数が極端に減少しないよう配慮した研究計画を作成していく予定である。

3) 無回答率の問題

無回答を減らすために無記名式の質問紙調査としているが、質問内容が薬物乱用という反社会行動であるため無回答が多くなることが予想される。今回の調査で各薬物の乱用経験について 2%から 3%が無回答であった。乱用率が数%程度の薬物では乱用頻度と無回答率が変らないこととなる。無回答者においては薬物乱用者が多い可能性があるため、特に乱用率の低い薬物では乱用率の信頼性が乏しくなる。薬物乱用の頻度そのものがかなり低下してきているため乱用頻度の信頼性が低いものとなって

きている。

5. 今後の課題

1) 調査対象数の問題

施設回収率はこれまで 70%から 80%であり、今回も施設回答数が 47 施設(82.5%)と比較的高かった。年度による施設の調査参加率の変動が大きいと結果の信頼性が低下するので今後とも施設回答率が一定以上保たれるようにする必要がある。回答率を維持するために、まず本調査が施設や児童の抵抗を引き起こさないような内容であることに注意しなければならない。現在でも薬物乱用への質問は無関心を引き起こしたり過去の非行を思い出させたりして良くないと考えられる場合があるようである。これらの点に配慮しつつ必要な事柄を聴ける質問紙にしていくことが望まれる。また調査時期が適切かどうかの問題もある。同時期に他の調査の依頼、入所児童の生活態度・状況、施設行事等により調査に参加しにくくなることもある。これらの点を考慮して今後の調査計画を立てる必要があると感がえられる。

2) 非行少年における薬物乱用の減少に対する対応

非行少年の薬物乱用は減少してきている。特に男性入所児童において薬物非行は激減した。ただ現在でも女性においては有機溶剤乱用や医薬品乱用などは 10%以上に認められる。

以前は薬物乱用と言えば有機溶剤と覚せい剤であったが、今は多様な薬物が使用されている。使用される薬物が多様であると、その有害性の説明も多様になるであろうし、入手経路などもまた多様になる。全般的な薬物教育は変わらないと思われるが、施設としては多くの乱用薬物について教育することが難しくなっているかもしれない。

近年話題となった危険ドラッグ(以前の脱法ハーブなど)は前回 2014 年調査で男女ともその頻度はおおよそ大麻乱用と同程度で数%程度認められたが今回 1%以下でありこれは危険ドラッグへの取り締まり強化の効果であろう。

薬物非行が目立たなくなると薬物教育そのものがおざなりになることも危惧される。薬物乱用児童にとって施設入所中は薬物教育を受けられる良い機会でありこの間に適切な教育を受けられるかどうかは施設退所後の薬物乱用再発にとって重要と思われる。

非行少年における薬物乱用は有機溶剤乱用中心から多様になってきており、今後そのような変化に合わせた調査や啓蒙教育が必要と思われる。ブタンや医薬品その他薬物を考慮して調査を継続していく必要がある。

E. 結論

薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物への意識および実態を把握する目的のため、全国の児童自立支援施設に入所中の児童に質問紙調査を実施した。有効調査人数は、980人（男性707人、女性273人）であった。調査により以下のような結果が得られた。

- 1) 有機溶剤乱用者数は、男性23人（3.3%）、女性47人（17.2%）、大麻乱用者数は、男性11人（1.6%）、女性9人（3.3%）、覚せい剤乱用者数は、男性6人（0.6%）、女性5人（1.8%）、ブタン乱用者数は、男性21人（3.0%）、女性17人（6.2%）であった。その他、睡眠薬乱用者数は、男性12人（1.7%）、女性29人（10.6%）、抗不安薬乱用者数が、男性10人（1.4%）、女性22人（8.1%）、ブロン（咳止め液）乱用者数が、男性8人（1.1%）、女性9人（3.3%）、危険ドラッグ乱用者数は、男性5人（0.7%）および女性2人（0.7%）に認められた。従来の結果と同様にすべての薬物にて女性は男性より乱用頻度が高かった。
- 2) 1994年度からの薬物乱用頻度の変化は以下のとおりである。有機溶剤乱用はこれまでと同様に減少傾向を示した。特に男性においてこの傾向が著しく、1994年41.2%から2006年以降10%前後に減少し前回4.5%で今回3.3%であった。女性でも1994年59.6%から2006年以降30%となっていたが、前回20.6%今回17.2%となった。覚せい剤乱用は男女とも2000年ころまで

やや増加傾向にあったが、2002年以降減少傾向を示しており、男性は2006年以降1%以下で今回0.8%女性も2008年以降10%以下となっていたが今回は5人（1.8%）とさらに減少した。大麻乱用頻度について、男性は4%から5%前後であったが2010年以降2%ほどであり今回も同様に1.6%であり、一方女性では1994年（22.0%）および1996年（19.0%）はやや高かったが1998年から14%から15%台となり前回5.5%今回3.3%と10%以下となっている。

3) 乱用に対する態度は、許容的態度をしめすものは男性では3%から5%女性では10%から20%見られ、女性では特に医薬品乱用に対しては許容的傾向であった。一方、入所非行児の非行歴を検討した結果非行程度がやや軽度化している傾向が示唆された。

謝辞

本研究は、全国の児童自立支援施設の多くの方々のご協力により実施ができました。ご協力いただいた方々にここで深謝させていただきます。

F. 参考文献

- 1) 阿部恵一郎：児童福祉施設(教護院)における有機溶剤乱用少年・少女の実態調査. 平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存研究の社会学的、精神医学的特徴に関する研究 平成6年度研究結果報告書. 1995
- 2) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成10年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」. 1999
- 3) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成12年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」. 2001
- 4) 庄司正実：全国の児童自立支援施設におけ

- る薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 14 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」. 2003
- 5) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 16 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究」. 2005
- 6) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 18 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握と乱用・依存者に対する対応策に関する研究」. 2007
- 7) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 20 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握と「回復」に向けての対応策に関する研究」. 2009
- 8) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 22 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態把握と再乱用防止のための社会資源等の現状と課題に関する研究」 2011
- 9) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 24 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態把握と薬物依存者に関する制度的社会資源の現状と課題に関する研究」 2013
- 10) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 26 年度厚生労働科学研究「脱法ドラッグを含む薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の回復とその家族に対する支援に関する研究」 2015
- 11) 警察庁刑事局組織犯罪対策部薬物銃器対策課:平成 27 年における薬物・銃器情勢 2016
- G. 研究発表**
なし
- H. 知的財産権の出願・登録状況**
なし

表1 性・学年構成

| | 男性 | | 女性 | |
|---------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 小学 4年以下 | 14 | 2.0 | 2 | 0.7 |
| 小学 5年 | 28 | 4.0 | 4 | 1.5 |
| 小学 6年 | 50 | 7.1 | 9 | 3.3 |
| 中学 1年 | 85 | 12.0 | 26 | 9.5 |
| 中学 2年 | 204 | 28.9 | 79 | 28.9 |
| 中学 3年 | 281 | 39.7 | 121 | 44.3 |
| 高校 1年 | 11 | 1.6 | 7 | 2.6 |
| 高校 2年 | 4 | 0.6 | 6 | 2.2 |
| 高校 3年 | 7 | 1.0 | 1 | 0.4 |
| 中卒 無職 | 2 | 0.3 | 7 | |
| 就労中 | 1 | 0.1 | | |

表2 性・年齢構成

| | 男性 | | 女性 | |
|------|-----|------|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 9歳以下 | 7 | 1.0 | | |
| 10歳 | 19 | 2.7 | 3 | 1.1 |
| 11歳 | 30 | 4.2 | 9 | 3.3 |
| 12歳 | 62 | 8.8 | 13 | 4.8 |
| 13歳 | 131 | 18.5 | 39 | 14.3 |
| 14歳 | 222 | 31.4 | 87 | 31.9 |
| 15歳 | 198 | 28.0 | 97 | 35.5 |
| 16歳 | 21 | 3.0 | 17 | 6.2 |
| 17歳 | 7 | 1.0 | 5 | 1.8 |
| 18歳 | 5 | 0.7 | 1 | 0.4 |

表3 施設入所期間

| | 男性 | | 女性 | |
|-----------|-----|------|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 3ヶ月以下 | 103 | 14.6 | 52 | 19.0 |
| 4ヶ月から6ヶ月 | 109 | 15.4 | 48 | 17.6 |
| 6ヶ月から1年 | 219 | 31.0 | 70 | 25.6 |
| 1年から1年6ヶ月 | 138 | 19.5 | 55 | 20.1 |
| 1年6ヶ月から2年 | 50 | 7.1 | 15 | 5.5 |
| 2年以上 | 74 | 10.5 | 23 | 8.4 |
| 無回答 | 14 | 2.0 | 10 | 3.7 |

表4 地域別人数

| | 男性 | | 女性 | |
|--------|-----|------|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 東北・北海道 | 119 | 16.8 | 51 | 18.7 |
| 関東 | 126 | 17.8 | 23 | 8.4 |
| 中部 | 96 | 13.6 | 34 | 12.5 |
| 関西 | 170 | 24.0 | 74 | 27.1 |
| 中国・四国 | 101 | 14.3 | 36 | 13.2 |
| 九州 | 71 | 10.0 | 32 | 11.7 |

表5 非行歴

| | 男性 | | 女性 | |
|-------------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 学校をさぼった | 439 | 62.1 | 221 | 81.0 |
| 外泊や家出をした | 397 | 56.2 | 219 | 80.2 |
| 自転車を盗んだ | 294 | 41.6 | 126 | 46.2 |
| 人の物やお金を盗んだ | 400 | 56.6 | 160 | 58.6 |
| 人にけがをさせた | 408 | 57.7 | 136 | 49.8 |
| 家からお金を持ち出した | 359 | 50.8 | 156 | 57.1 |
| 不良仲間とつき合った | 263 | 37.2 | 160 | 58.6 |
| 家の中で暴れた | 316 | 44.7 | 156 | 57.1 |
| 人の物をわざと壊した | 232 | 32.8 | 106 | 38.8 |
| バイクや自動車を盗んだ | 164 | 23.2 | 74 | 27.1 |
| ひったくり、カツアゲ | 135 | 19.1 | 61 | 22.3 |
| 無免許運転 | 164 | 23.2 | 73 | 26.7 |
| 物や家に火をつけた | 198 | 28.0 | 66 | 24.2 |
| 根性焼きや入墨をした | 120 | 17.0 | 78 | 28.6 |
| 性関係のこと | 202 | 28.6 | 132 | 48.4 |
| その他 | 90 | 12.7 | 61 | 22.3 |
| 暴力団とつき合った | 50 | 7.1 | 49 | 17.9 |
| 暴走族に入った | 32 | 4.5 | 19 | 7.0 |

表6 初発非行年齢

| | 男性 | | 女性 | |
|--------|-----|------|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 小学校入学前 | 51 | 7.2 | 10 | 3.7 |
| 小学 1年 | 52 | 7.4 | 22 | 8.1 |
| 小学 2年 | 54 | 7.6 | 21 | 7.7 |
| 小学 3年 | 81 | 11.5 | 39 | 14.3 |
| 小学 4年 | 102 | 14.4 | 29 | 10.6 |
| 小学 5年 | 101 | 14.3 | 31 | 11.4 |
| 小学 6年 | 86 | 12.2 | 35 | 12.8 |
| 中学 1年 | 84 | 11.9 | 50 | 18.3 |
| 中学 2年 | 31 | 4.4 | 15 | 5.5 |
| 中学 3年 | 4 | 0.6 | 1 | 0.4 |
| 中学卒業後 | 1 | 0.1 | 1 | 0.4 |

表7 家庭裁判所への係属歴

| | 男性 | | 女性 | |
|----|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| ある | 155 | 21.9 | 51 | 18.7 |
| ない | 525 | 74.3 | 211 | 77.3 |

表8 周囲の薬物乱用の頻度

| | 男性 | | 女性 | |
|--------|----|------|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 有機溶剤 | 74 | 10.5 | 90 | 33.0 |
| 大麻 | 43 | 6.1 | 48 | 17.6 |
| 覚せい剤 | 41 | 5.8 | 63 | 23.1 |
| ブタン | 57 | 8.1 | 49 | 17.9 |
| MDMA | 12 | 1.7 | 17 | 6.2 |
| コカイン | 15 | 2.1 | 16 | 5.9 |
| リタリン | 8 | 1.1 | 9 | 3.3 |
| 睡眠薬 | 56 | 7.9 | 78 | 28.6 |
| 抗不安薬 | 44 | 6.2 | 57 | 20.9 |
| 咳止め液 | 16 | 2.3 | 14 | 5.1 |
| 危険ドラッグ | 23 | 3.3 | 33 | 12.1 |
| その他 | 23 | 3.3 | 17 | 6.2 |

表9 周囲の薬物乱用による異常や症状頻度

| | 男性 | | 女性 | |
|----------|----|-----|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 有機溶剤 | 18 | 2.5 | 27 | 9.9 |
| 大麻 | 12 | 1.7 | 25 | 9.2 |
| 覚せい剤 | 18 | 2.5 | 33 | 12.1 |
| ブタン | 16 | 2.3 | 25 | 9.2 |
| 睡眠薬・抗不安薬 | 15 | 2.1 | 34 | 12.5 |
| 危険ドラッグ | 8 | 1.1 | 18 | 6.6 |

表10 薬物乱用を誘われた頻度

| | 男性 | | 女性 | |
|----------|----|-----|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 有機溶剤 | 30 | 4.2 | 49 | 17.9 |
| 大麻 | 25 | 3.5 | 34 | 12.5 |
| 覚せい剤 | 13 | 1.8 | 20 | 7.3 |
| ブタン | 22 | 3.1 | 27 | 9.9 |
| 睡眠薬・抗不安薬 | 13 | 1.8 | 29 | 10.6 |
| 危険ドラッグ | 11 | 1.6 | 15 | 5.5 |
| その他 | 9 | 1.3 | 9 | 3.3 |

表11-1 薬物入手可能性(男性) 単位%

| | 簡単 | 何とか | | |
|----------|------|-----|---------|-------|
| | | 手に入 | ほとんど不可能 | 絶対不可能 |
| 有機溶剤 | 11.5 | 7.2 | 8.6 | 72.7 |
| 大麻 | 5.7 | 7.9 | 7.4 | 79.0 |
| 覚せい剤 | 4.4 | 6.6 | 8.2 | 80.7 |
| ブタン | 24.0 | 5.0 | 5.8 | 65.1 |
| 睡眠薬・抗不安薬 | 13.0 | 7.0 | 8.2 | 71.9 |
| 危険ドラッグ | 2.8 | 6.8 | 9.5 | 80.9 |

表11-2 薬物入手可能性(女性) 単位%

| | 簡単 | 何とか | | |
|----------|------|------|---------|-------|
| | | 手に入 | ほとんど不可能 | 絶対不可能 |
| 有機溶剤 | 33.6 | 10.0 | 7.9 | 48.5 |
| 大麻 | 14.8 | 11.8 | 11.0 | 62.4 |
| 覚せい剤 | 14.0 | 14.8 | 8.9 | 62.3 |
| ブタン | 39.5 | 8.2 | 6.0 | 46.4 |
| 睡眠薬・抗不安薬 | 38.9 | 11.3 | 5.0 | 44.8 |
| 危険ドラッグ | 9.3 | 12.3 | 13.6 | 64.8 |

表12 本人の薬物乱用の頻度

| | 男性 | | 女性 | |
|--------|----|-----|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 有機溶剤 | 23 | 3.3 | 47 | 17.2 |
| 大麻 | 11 | 1.6 | 9 | 3.3 |
| 覚せい剤 | 6 | 0.8 | 5 | 1.8 |
| ブタン | 21 | 3.0 | 17 | 6.2 |
| MDMA | 4 | 0.6 | 2 | 0.7 |
| コカイン | 3 | 0.4 | 1 | 0.4 |
| リタリン | 3 | 0.4 | 1 | 0.4 |
| 睡眠薬 | 12 | 1.7 | 29 | 10.6 |
| 抗不安薬 | 10 | 1.4 | 22 | 8.1 |
| 咳止め液 | 8 | 1.1 | 9 | 3.3 |
| 危険ドラッグ | 5 | 0.7 | 2 | 0.7 |
| その他 | 13 | 1.8 | 4 | 1.5 |

表13 飲酒歴

| | 男性 | | 女性 | |
|--------|-----|------|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| ない | 385 | 54.5 | 69 | 25.3 |
| 1年で数回 | 108 | 15.3 | 38 | 13.9 |
| 月に2-3回 | 67 | 9.5 | 35 | 12.8 |
| 週に2-3回 | 77 | 10.9 | 62 | 22.7 |
| ほぼ毎日 | 44 | 6.2 | 62 | 22.7 |

表14 飲酒開始 (経験者のみ)

| | 男性 | | 女性 | |
|-------|----|------|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 小学 1年 | 12 | 4.1 | 7 | 3.6 |
| 小学 2年 | 4 | 1.4 | 5 | 2.5 |
| 小学 3年 | 18 | 6.1 | 9 | 4.6 |
| 小学 4年 | 25 | 8.4 | 15 | 7.6 |
| 小学 5年 | 42 | 14.2 | 30 | 15.2 |
| 小学 6年 | 38 | 12.8 | 27 | 13.7 |
| 中学 1年 | 96 | 32.4 | 59 | 29.9 |
| 中学 2年 | 27 | 9.1 | 24 | 12.2 |
| 中学 3年 | 5 | 1.7 | 4 | 2.0 |

表15 喫煙歴

| | 男性 | | 女性 | |
|--------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| ない | 388 | 54.9 | 93 | 34.1 |
| 1年で数回 | 65 | 9.2 | 30 | 11.0 |
| 月に2-3回 | 22 | 3.1 | 15 | 5.5 |
| 週に2-3回 | 36 | 5.1 | 22 | 8.1 |
| ほぼ毎日 | 170 | 24.0 | 105 | 38.5 |

表16 喫煙開始

| | 男性 | | 女性 | |
|-------|----|------|----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 小学 1年 | 8 | 2.7 | 2 | 1.2 |
| 小学 2年 | 11 | 3.7 | 1 | 0.6 |
| 小学 3年 | 15 | 5.1 | 4 | 2.3 |
| 小学 4年 | 36 | 12.1 | 10 | 5.8 |
| 小学 5年 | 44 | 14.8 | 24 | 14.0 |
| 小学 6年 | 43 | 14.5 | 18 | 10.5 |
| 中学 1年 | 84 | 28.3 | 63 | 36.6 |
| 中学 2年 | 20 | 6.7 | 26 | 15.1 |
| 中学 3年 | 2 | 0.7 | 6 | 3.5 |

表17 法律による未成年の喫煙禁止について

| | 男性 | | 女性 | |
|-----------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| すべきではない | 370 | 52.3 | 82 | 30.0 |
| 少々ならかまわない | 161 | 22.8 | 70 | 25.6 |
| かまわない | 130 | 18.4 | 100 | 36.6 |

表18-1 有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタンの乱用頻度の年代変化(男性)

| | 単位:% | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 1994 | 1996 | 1998 | 2000 | 2002 | 2004 | 2006 | 2008 | 2010 | 2012 | 2014 | 2016 |
| 有機溶剤 | 41.2 | 37.3 | 30.3 | 26.4 | 21.6 | 14.3 | 9.8 | 10.7 | 7.2 | 4.5 | 4.5 | 3.3 |
| 大麻 | 5.5 | 6.7 | 4.8 | 5.0 | 4.9 | 2.7 | 4.0 | 1.9 | 2.0 | 2.1 | 1.6 | |
| 覚せい剤 | 1.2 | 1.7 | 3.9 | 5.0 | 2.5 | 1.6 | 0.7 | 0.3 | 0.4 | 0.7 | 0.1 | 0.8 |
| ブタン | | | | 17.8 | 17.5 | 13.7 | 10.5 | 11.7 | 9.1 | 10.1 | 11.3 | 3.0 |

表18-2 有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタンの乱用頻度の年代変化(女性)

| | 単位:% | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 1994 | 1996 | 1998 | 2000 | 2002 | 2004 | 2006 | 2008 | 2010 | 2012 | 2014 | 2016 |
| 有機溶剤 | 59.6 | 50.6 | 48.5 | 52.3 | 46.5 | 44.2 | 31.1 | 30.5 | 28.6 | 21.3 | 20.6 | 17.2 |
| 大麻 | 22.0 | 19.0 | 14.4 | 14.7 | 15.9 | 15.9 | 14.0 | 14.0 | 12.6 | 7.0 | 5.5 | 3.3 |
| 覚せい剤 | 6.6 | 10.8 | 16.9 | 15.2 | 13.6 | 12.4 | 10.9 | 6.9 | 8.3 | 4.5 | 3.3 | 1.8 |
| ブタン | | | | 33.3 | 27.9 | 25.7 | 15.0 | 18.8 | 21.5 | 16.4 | 21.8 | 6.2 |

表19-1 地域別薬物乱用頻度(男性)

| | 有機溶剤 | 大麻 | ブタン | 睡眠薬 | 危険ドラッグ |
|---------------|------|------|-------|------|--------|
| 東北・北海道(n=119) | 1.8% | 0.0% | 0.9% | 0.9% | 0.0% |
| 関東(n=126) | 4.1% | 0.8% | 0.8% | 0.0% | 0.0% |
| 中部(n=96) | 1.1% | 2.2% | 5.4% | 1.1% | 1.1% |
| 関西(n=170) | 3.6% | 2.4% | 2.5% | 2.4% | 0.6% |
| 中国・四国(n=101) | 2.0% | 0.0% | 1.0% | 2.0% | 0.0% |
| 九州(n=71) | 7.1% | 4.3% | 10.0% | 5.7% | 2.9% |

表19-2 地域別薬物乱用頻度(女性)

| | 有機溶剤 | 大麻 | ブタン | 睡眠薬 | 危険ドラッグ |
|--------------|-------|------|------|-------|--------|
| 東北・北海道(n=51) | 4.2% | 0.0% | 4.1% | 8.2% | 0.0% |
| 関東(n=23) | 9.1% | 0.0% | 4.5% | 13.0% | 0.0% |
| 中部(n=34) | 18.2% | 0.0% | 3.0% | 3.0% | 0.0% |
| 関西(n=74) | 22.2% | 8.2% | 5.6% | 15.1% | 1.4% |
| 中国・四国(n=36) | 31.3% | 3.2% | 9.7% | 9.7% | 3.2% |
| 九州(n=32) | 18.8% | 0.0% | 3.1% | 6.3% | 0.0% |

表20-1 薬物への態度(男性)

| | すべきではない | 少々なら構わない | 構わない | 考えたことがない |
|---------|---------|----------|------|----------|
| | 有機溶剤 | 40.8% | 3.1% | 1.8% |
| 大麻 | 41.3% | 2.3% | 2.0% | 54.4% |
| 覚せい剤 | 43.2% | 1.8% | 1.2% | 53.7% |
| ブタン | 40.2% | 2.4% | 2.1% | 55.2% |
| 睡眠薬・抗不妊 | 39.5% | 2.3% | 2.8% | 55.4% |
| 危険ドラッグ | 42.0% | 1.4% | 1.4% | 55.2% |

表20-2 薬物への態度(女性)

| | すべきではない | 少々なら構わない | 構わない | 考えたことがない |
|---------|---------|----------|-------|----------|
| | 有機溶剤 | 29.6% | 9.9% | 5.9% |
| 大麻 | 33.7% | 6.8% | 5.2% | 54.2% |
| 覚せい剤 | 35.3% | 5.2% | 4.8% | 54.6% |
| ブタン | 29.3% | 7.2% | 6.8% | 56.6% |
| 睡眠薬・抗不妊 | 26.8% | 10.0% | 14.0% | 49.2% |
| 危険ドラッグ | 34.3% | 4.8% | 4.4% | 56.5% |

表21 最もしていた時の有機溶剤乱用頻度(乱用者のみ)

| | 男性(n=18) | | 女性(n=36) | |
|----------|----------|------|----------|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 今まで1, 2回 | 11 | 61.1 | 18 | 50.0 |
| 数回以上 | 5 | 27.8 | 15 | 41.7 |
| ほとんど毎日 | 2 | 11.1 | 3 | 8.3 |

表22 有機溶剤の知識

| | 男性 | | 女性 | |
|------------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 急性中毒死 | 216 | 30.6 | 82 | 30.0 |
| 精神病状態 | 311 | 44.0 | 160 | 58.6 |
| フラッシュバック | 273 | 38.6 | 143 | 52.4 |
| いずれも知らなかった | 295 | 41.7 | 80 | 29.3 |

表23 有機溶剤で体験した症状(有機溶剤乱用者)

| | 男性乱用者(n=18) | | 女性乱用者(n=36) | |
|----------|-------------|------|-------------|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 精神病状態 | 6 | 33.3 | 8 | 22.2 |
| フラッシュバック | 4 | 22.2 | 8 | 22.2 |

表25 最もしていた時のブタン乱用頻度(乱用者のみ)

| | 男性(n=26) | | 女性(n=22) | |
|----------|----------|------|----------|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 今まで1, 2回 | 11 | 42.3 | 14 | 63.6 |
| 数回以上 | 13 | 50.0 | 4 | 18.2 |
| ほとんど毎日 | 2 | 7.7 | 4 | 18.2 |

表25 ブタンの知識

| | 男性(n=707) | | 女性(n=273) | |
|------------|-----------|------|-----------|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 急性中毒死 | 503 | 71.1 | 185 | 67.8 |
| 精神病状態 | 120 | 17.0 | 39 | 14.3 |
| いずれも知らなかった | 510 | 72.1 | 80 | 29.3 |

表26 ブタンで体験した症状(乱用者のみ)

| | 男性乱用者(n=26) | | 女性乱用者(n=22) | |
|-------|-------------|------|-------------|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 精神病状態 | 11 | 42.3 | 8 | 36.4 |

表27 大麻への関心

| | 男性 | | 女性 | |
|----------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 知らなかった | 184 | 26.0 | 44 | 16.1 |
| 関心がなかった | 428 | 60.5 | 164 | 60.1 |
| 見てみたかった | 25 | 3.5 | 29 | 10.6 |
| 試してみたかった | 24 | 3.4 | 18 | 6.6 |

表28 最もしていた時の大麻乱用頻度(乱用者のみ)

| | 男性(n=13) | | 女性(n=8) | |
|----------|----------|------|---------|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 今まで1, 2回 | 6 | 46.2 | 4 | 50.0 |
| 数回以上 | 4 | 30.8 | 4 | 50.0 |
| ほとんど毎日 | 3 | 23.1 | 0 | 0.0 |

表29 大麻の知識

| | 男性 | | 女性 | |
|-------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 精神病状態 | 327 | 46.3 | 152 | 55.7 |

表30 大麻で体験した症状(乱用者のみ)

| | 男性乱用者(n=13) | | 女性乱用者(n=8) | |
|-------|-------------|------|------------|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 精神病状態 | 6 | 46.2 | 2 | 25.0 |

表31 覚せい剤への関心

| | 男 性 | | 女 性 | |
|-------------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 覚せい剤は知らなかった | 159 | 22.5 | 32 | 11.7 |
| 関心がなかった | 460 | 65.1 | 181 | 66.3 |
| 見てみたかった | 26 | 3.7 | 23 | 8.4 |
| 試してみたかった | 13 | 1.8 | 16 | 5.9 |

表32 覚せい剤乱用頻度

| | 男性(n=6) | | 女性(n=7) | |
|----------|---------|------|---------|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 今まで1, 2回 | 3 | 50.0 | 6 | 85.7 |
| 数回以上 | 1 | 16.7 | 1 | 14.3 |
| ほとんど毎日 | 2 | 33.3 | 0 | 0.0 |

表33 覚せい剤の知識

| | 男 性 | | 女 性 | |
|------------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 精神病状態 | 253 | 35.8 | 130 | 47.6 |
| フラッシュバック | 484 | 68.5 | 109 | 39.9 |
| いずれも知らなかった | 383 | 54.2 | 112 | 41.0 |

表34 覚せい剤で体験した症状

| | 男性乱用者(n=6) | | 女性乱用者(n=11) | |
|----------|------------|------|-------------|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 精神病状態 | 3 | 50.0 | 1 | 14.3 |
| フラッシュバック | 3 | 50.0 | 1 | 14.3 |

表35 危険ドラッグの知識

| | 男 性 | | 女 性 | |
|------------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 精神病状態 | 268 | 37.9 | 140 | 51.3 |
| 急性中毒死 | 228 | 32.2 | 96 | 35.2 |
| いずれも知らなかった | 371 | 52.5 | 115 | 42.1 |

表36 危険ドラッグが覚せい剤より有害なことがあることへの知識

| | 男 性 | | 女 性 | |
|-------|-----|------|-----|------|
| | 人数 | % | 人数 | % |
| 知っていた | 337 | 47.7 | 160 | 58.6 |

調査へのお願い

- この調査の目的は、薬物などに対するみなさんの考えや経験を知ることです。この調査は、厚生労働省の科学研究費によるもので、現在、全国の一般中学生でも同様な調査が行われています。
- 自分の名前は書く必要はありません。また、集めた用紙もコンピュータで集計しますので誰がどのように答えたのか分かりません。したがって、答えた内容が施設での生活や退院時期に影響することはありません。どうしても答えたくない質問には答えなくてもかまいません。
- 各質問に対する回答は、特にことわらない限りもっともあてはまる内容の番号を一つだけ選んで○をつけて下さい。

| | | |
|---------|------|------|
| 目白大学 | 教授 | 庄司正実 |
| 国立武蔵野学院 | 院長 | 青木 建 |
| 国立きぬ川学院 | 医務課長 | 富田 拓 |

問 1 あなたの年齢はいくつですか？ 年齢を記入してください _____ 歳

問 2 学校は？

- 1 小学校 2 中学校 3 高校 4 専門学校 5 中学卒業後で無職 6 しゅうらうちゅう 就労中

問 3 何年生ですか？ 学年を記入してください _____ 年生

問 4 男性ですか，女性ですか？ 1 男性 2 女性

問 5 今回，この施設に入所してからどのくらいになりますか？ _____ 年 _____ ヶ月

問 6 これまで家庭裁判所かていさいばんしよから呼び出されたことはありますか？ 1 ある 2 ない

問7

あなたの身近（友達，先輩，知り合い，家族など）で以下のような薬物をやっている人はいましたか？

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----|----------------------------|-----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド，マニキュアの除光液なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 2) マリファナ（大麻，ハッパ，ハシッシも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 3) 覚せい剤（エス，スピード，シャブも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 4) ガス（ライター用ガス，カセットコンロ用ガスなど） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 5) MDMA（エクスタシー，エックス，Xも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 6) コカイン（クラックも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 7) リタリン（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 8) 睡眠薬（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 9) 精神安定剤（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 10) ブロン薬などのセキ止め液（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 11) 危険ドラッグ（脱法ドラッグ，脱法ハーブなども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 12) その他の薬物 | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |

問8

身近な人で，以下の薬物をやった結果病気や異常になった人がいましたか？

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----|----------------------------|-----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド，マニキュアの除光液なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 2) マリファナ（大麻，ハッパ，ハシッシも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 3) 覚せい剤（エス，スピード，シャブも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 4) ガス（ライター用ガス，カセットコンロ用ガスなど） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 5) 睡眠薬・精神安定剤（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 6) 危険ドラッグ（脱法ドラッグ，脱法ハーブなども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |

問9

あなたは以下のような薬物の使用を誘われたことがありますか？

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----|----------------------------|----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド，マニキュアの除光液なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 2) マリファナ（大麻，ハッパ，ハシッシも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 3) 覚せい剤（エス，スピード，シャブも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 4) ガス（ライター用ガス，カセットコンロ用ガスなど） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 5) 睡眠薬・精神安定剤（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 6) 危険ドラッグ（脱法ドラッグ，脱法ハーブなども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 7) その他の薬物 | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |

問 10

あなた自身は以下のような薬物を1回でも使用したことがありますか？

- | | | |
|--|-------------------------------|-------------------------------|
| 1) シンナーやトルエン (ボンド, マニキュアの除光液 ^{じょこうえき} なども含む) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 2) マリファナ (大麻 ^{たいま} , ハッパ, ハシッシも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 3) 覚せい剤 (エス, スピード, シャブも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 4) ガス (ライター用ガス, カセットコンロ用ガスなど) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 5) MDMA (エクスタシー, エックス, Xも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 6) コカイン (クラックも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 7) リタリン (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 8) 睡眠薬 ^{すいみんやく} (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 9) 精神安定剤 ^{せいしんあんていざい} (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 10) ブロン薬などのセキ止め液 (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 11) 脱法ハーブ ^{だっぼう} (脱法ドラッグ ^{だっぼう} , 危険ドラッグなども含む) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 12) その他の薬物 | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |

問 11

施設に入る前、あなたが以下のような薬物を手に入れることはどの程度難しいことでしたか？

- | | | | | |
|---|------------------------------------|---|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1) シンナーやトルエン | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが、なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 2) マリファナ (大麻 ^{たいま} , ハッパ, ハシッシも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが、なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 3) 覚せい剤 (エス, スピード, シャブも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが、なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 4) ガスパンのためのライター用ガス・ カセットコンロ用ガスなど | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが、なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 5) 睡眠薬 ^{すいみんやく} ・精神安定剤 ^{せいしんあんていざい} (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが、なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 6) 危険ドラッグ (脱法ドラッグ ^{だっぼう} , 脱法ハーブ ^{だっぼう} なども含む) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが、なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |

問 12 施設に入る前、以下の薬物を使うことをどう思っていましたか？

- 1) シンナーやトルエン **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
3 かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 2) マリファナ **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(大麻^{たいま}, ハッパ, ハシッシも同じ) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 3) 覚せい剤 **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(エス, スピード, シャブも同じ) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 4) ガスパンのためのライター用ガス・
カセットコンロ用ガスなど **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
3 かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 5) 睡眠薬・精神安定剤 **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(すいみんやく^{すいみんやく}、せいしんあんていざい^{せいしんあんていざい})
(病気治療以外の目的で) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 6) 危険ドラッグ **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(だっぼう^{だっぼう}ドラッグ、だっぼう^{だっぼう}ハーブなども含む) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった

問 13 入所前から以下の薬物使用が法律で禁止されていることを知っていましたか？

- 1) シンナーやトルエン **1** 知っていた **2** 知らなかった
- 2) マリファナ **1** 知っていた **2** 知らなかった
(大麻^{たいま}, ハッパ, ハシッシも同じ)
- 3) 覚せい剤 (エス, スピード, シャブも同じ) **1** 知っていた **2** 知らなかった
- 4) 危険ドラッグ **1** 知っていた **2** 知らなかった
(だっぼう^{だっぼう}ドラッグ、だっぼう^{だっぼう}ハーブなども含む)

問 14 この施設に入る前、お酒（アルコール類）やタバコをどのくらいやりましたか？

- 1) お酒について
1 飲んだことはない **2** 1年で数回 **3** 月2-3回 **4** 週に2-3回 **5** ほぼ毎日
- 2) お酒はいつ頃からやりましたか？ (いずれかに○印をつけてください)
1 小学校 **2** 中学校 の _____ 年生頃から

(問 14 のつづき)

3) タバコについて

- 1 吸ったことはない 2 1年で数回 3 月2-3回 4 週に2-3回 5 ほぼ毎日

4) タバコはいつ頃からやりましたか？ (いずれかに○印をつけてください)

- 1 小学校 2 中学校 の _____ 年生頃から

5) 未成年者のタバコ (喫煙) をどう思っていましたか？

- 1 法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
 2 法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
 3 法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた

シンナー遊びについて

問 15 施設に入る前、最もしていた時で「シンナー遊び」をどのくらいしていましたか？

- 1 したことはない 2 今まで1, 2回くらい 3 数回以上した 4 ほとんど毎日

問 16

「シンナー遊び」をしすぎたり繰り返したりすると、下のようなことがおこることがあります。
「シンナー遊び」をする前 (したことがない人は施設入所前)、「シンナー遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- 1 きゅうせいちゆうどくし 急性中毒死 (吸っていてそのまま急に死ぬこと)
 2 せいしんびょうじょうたい 精神病状態 (何も無いのに物が見えたり声が聞こえたりする幻覚、誰もいないのに自分が見られているとか自分が噂されていると思いきなりする妄想がでること)
 3 フラッシュバック (薬を止めてしばらくたつのに幻覚や妄想がでること)
 4 いずれも知らなかった

問 17

「シンナー遊び」の結果、上記のような^{せいしんびょうじょうたい}精神病状態 (幻覚や妄想) やフラッシュバックなどを体験したことがありますか？体験したことをすべてに○をつけてください。(もともと「シンナー遊び」をしていない人は 3を選んでください)

- 1 せいしんびょうじょうたい 精神病状態 2 フラッシュバック 3 「シンナー遊び」はしたことがない

ガスパン遊び（ガスの吸引）について

問 18 施設に入る前、最もしていた時で「ガスパン遊び」をどのくらいしていましたか？

- 1 したことはない 2 今まで1, 2回くらい 3 数回以上した 4 ほとんど毎日

問 19

「ガスパン遊び」をすると^{せいしんびょうじょうたい}精神病状態（^{まぼろし}幻覚や妄想）や^{きゅうせいちゅうどくし}急性中毒死をおこすことをガスパン遊びをする前に（したことがない人は施設入所前）知っていましたか？「ガスパン遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- 1 ^{せいしんびょうじょうたい}精神病状態 2 ^{きゅうせいちゅうどくし}急性中毒死 3 いずれも知らなかった

問 20

「ガス」を使った結果、^{せいしんびょうじょうたい}精神病状態（^{まぼろし}幻覚や妄想）を体験したことがありますか？

- 1 ある 2 ない 3 ガスパンは使ったことがない

^{たいま}大麻（マリファナ、ハシッシ、ハッパ）について

問 21

^{たいま}大麻を吸う前（使ったことがない人は施設入所前）、^{たいま}大麻についてあなたはどのように思っていましたか？

- 1 大麻は知らなかった 2 関心がなかった
 3 見てみたかった 4 試してみたかった

問 22

施設に入る前、最もしていた時で^{たいま}大麻をどのくらい吸っていましたか？

- 1 したことはない 2 今まで1, 2回くらい 3 数回以上した 4 ほとんど毎日

問 23

^{たいま}大麻を吸うと^{せいしんびょうじょうたい}精神病状態（^{まぼろし}幻覚や妄想）をおこすことを^{たいま}大麻を吸う前（したことがない人は施設入所前）に知っていましたか？^{たいま}大麻でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- 1 知っていた 2 知らなかった

問 24

大麻^{たいま}を吸った結果、精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}（幻覚や妄想）を体験したことがありますか？

- ① ある ② ない ③ 大麻^{たいま}は使ったことがない

覚せい剤（スピード、エス）について

問 25

覚せい剤（スピード、エス）を使う前（使ったことがない人は施設入所前）、覚せい剤についてあなたはどう思っていましたか？

- ① 覚せい剤は知らなかった ② 関心がなかった
③ 見てみたかった ④ 試してみたかった

問 26

施設に入る前、最も使っていた時で覚せい剤（スピード、エス）をどのくらい使っていましたか？

- ① したことはない ② 今まで1、2回くらい ③ 数回以上した ④ ほとんど毎日

問 27

覚せい剤によって精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}やフラッシュバックが起こることを覚せい剤を使う前（したことがない人は施設入所前）知っていましたか？覚せい剤でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 精神病状態^{せいしんびょうじょうたい} ② フラッシュバック ③ いずれも知らなかった

問 28

覚せい剤を使った結果、精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}やフラッシュバックを体験したことがありますか？体験したことをすべてに○をつけてください。（もともと覚せい剤を使っていない人は③を選んでください）

- ① 精神病状態^{せいしんびょうじょうたい} ② フラッシュバック ③ 覚せい剤は使ったことがない

危険ドラッグについて

問 29

危険ドラッグをすると精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}や急性中毒死^{きゅうせいちゅうどくし}をおこすことを知っていましたか？知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 精神病状態^{せいしんびょうじょうたい} ② 急性中毒死^{きゅうせいちゅうどくし} ③ いずれも知らなかった

問 30

危険ドラッグは場合によっては覚せい剤などよりももっと脳への影響が大きいことがあるのを（意識を失ったり幻覚がもっとひどいなど）知っていましたか？

- 1 知っていた 2 知らなかった

生活環境について

問 31

以下のようないわゆる非行について、したことがあるのはどれですか？したことがあるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|--|---|---|
| <input type="checkbox"/> 1 外泊や家出をした | <input type="checkbox"/> 2 人にけがをさせた | <input type="checkbox"/> 3 家からお金を持ち出した |
| <input type="checkbox"/> 4 自転車を盗んだ | <input type="checkbox"/> 5 人の物やお金を盗んだ | <input type="checkbox"/> 6 ひったくり、カツアゲ |
| <input type="checkbox"/> 7 家の中で暴れた | <input type="checkbox"/> 8 暴走族に入った | <input type="checkbox"/> 9 物や家に火をつけた |
| <input type="checkbox"/> 10 学校をさぼった | <input type="checkbox"/> 11 バイクや自動車を盗んだ | <input type="checkbox"/> 12 人の物やみんなの物をわざと壊した |
| <input type="checkbox"/> 13 不良仲間とつき合った | <input type="checkbox"/> 14 暴力団とつき合った | <input type="checkbox"/> 15 根性焼き <small>こんじょう</small> や入墨 <small>いれずみ</small> をした |
| <input type="checkbox"/> 16 無免許運転 | <input type="checkbox"/> 17 性関係のこと | <input type="checkbox"/> 18 その他 |

問 32

このような非行を、あなたが初めてしたのはいつですか？

- | | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 小学校入学前 | <input type="checkbox"/> 2 小学 1 年生 | <input type="checkbox"/> 3 小学 2 年生 | <input type="checkbox"/> 4 小学 3 年生 | <input type="checkbox"/> 5 小学 4 年生 |
| <input type="checkbox"/> 6 小学 5 年生 | <input type="checkbox"/> 7 小学 6 年生 | <input type="checkbox"/> 8 中学 1 年生 | <input type="checkbox"/> 9 中学 2 年生 | <input type="checkbox"/> 10 中学 3 年生 |
| <input type="checkbox"/> 11 中学卒業以後 | | | | |

問 33

親から暴力を振るわれたことがありますか？

- | | | |
|---|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1 ない | <input type="checkbox"/> 2 まれ（今まで 1, 2 度） | <input type="checkbox"/> 3 たまに（年に 1, 2 回くらい） |
| <input type="checkbox"/> 4 しばしば（月に 1, 2 回くらい） | <input type="checkbox"/> 5 かなり（週に 1, 2 回以上） | |

問 34

親からひどい暴言をはかれたことがありますか？

- | | | |
|---|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1 ない | <input type="checkbox"/> 2 まれ（今まで 1, 2 度） | <input type="checkbox"/> 3 たまに（年に 1, 2 回くらい） |
| <input type="checkbox"/> 4 しばしば（月に 1, 2 回くらい） | <input type="checkbox"/> 5 かなり（週に 1, 2 回以上） | |

質問は以上です。ありがとうございました。